

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2371001088
法人名	株式会社フレンズハウス
事業所名	グループホーム フレンズハウス大塩
訪問調査日	平成20年5月15日
評価確定日	平成20年6月11日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2371001088
法人名	株式会社フレンズハウス
事業所名	グループホーム フレンズハウス大塩
所在地	名古屋市市中川区大塩町25番地 (電 話) 052-352-0820

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年5月15日	評価確定日	平成20年6月11日

【情報提供票より】（平成20年4月11日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年10月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 6人, 非常勤 7人, 常勤換算 5.8人	

（２）建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1～2 階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	34,500円		その他の経費(月額)	31,500円	
敷金	有（円）		無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（172,500円） 無		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200円	昼食	450円	
	夕食	450円	おやつ	円	
	または1日当たり		円		

（４）利用者の概要（平成20年4月11日現在）

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 78.9 歳	最低 58 歳	最高 87 歳		
協力医療機関名	堂満医院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人で掲げる理念のほか、ホーム独自の理念を全職員でつくり、地域の人が気軽に立ち寄れ、入居者が楽しく暮らせる我が家のようなホームを目指している。理念は玄関の見やすい所に掲示しており、職員は日々目にし、理念を常に意識しながら日々の介護に取り組んでいる。理念に基づき、町内会に加入し、地域の行事には積極的に参加すると共に、自主的に公園の草取りをするなど、地域に溶け込む努力をしている。また、明るく楽しい暮らしのために、行事にも工夫をこらし、法人の行事には有名人(力士、スポーツ選手)、ボランティアなどの訪問やイベントを催している。ホーム内の行事も多く計画され、入居者や家族が一緒になって楽しみ、日々の生活に変化と潤いを持たす取り組みをしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の評価から、地域密着型サービスについて、全職員で話し合いを重ね、ホーム独自の理念づくりに取り組んだ。職員は自らつくった理念の実践に向けて日々取り組み、地域に溶け込む介護サービスの実施に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	職員一人ひとりが自己評価を行うことで、自身の介護サービスの取り組みの見直しになり、サービスの質の向上に役立っている。また、職員間で話をする機会が増え、評価の意義や目的を理解し、常に意識しながら介護に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	運営推進会議は2カ月に1回開催され、議題はホームの状況、行事計画、活動状況、外部評価の結果と課題の取り組みなどが報告されている。メンバーからは意見、アドバイスを受け、運営に反映させ改善に取り組んでいる。会議録は、玄関に重要事項と共に置かれ、閲覧できるようにしてあるが、不参加者などへの配布は行われていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	「フレンズ通信」を2カ月に1回発行し、ホームでの入居者の生活ぶりや行事参加の様子などを知らせている。家族がホームへ来訪した時には、必ず職員が話をし、本人、家族の要望や不安、苦情などを聞いて申し送りノートに記載して、職員全員で情報の共有に努めている。家族会は法人合同で年1回開催し、入居者や家族、職員の意見交換と交流の場となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入し、回覧板もあり、ホームからは「フレンズニュース」を回覧してもらっている。地域の情報は回覧や民生委員から貰い、地域の行事には積極的に参加している。また、ホームが自主的に盆踊りの会場となる公園の草取りを行ったり、こども110番の家になるなど、できることから地域との繋がりを持ち、地域に溶け込むよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とホーム独自の理念を、玄関の目につきやすい所に掲示している。理念が意味する「気軽に自然体で生きながら、地域に溶け込み、居心地の良い家庭的な我が家をめざす」雰囲気が感じられ、職員全員が理念を理解し介護に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社時にホーム長から職員に、理念についてその内容と主旨、および介護の根源であることを説明して、理解し実践するよう伝えている。また、理念は目につきやすい所に掲示してあり、日々目にし、意識しながら介護サービスに取り組んでおり、毎日の活動にもこうした雰囲気が感じられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧も回っており、ホームからも年4回発行の「フレンズニュース」を回覧してもらっている。地域の情報は回覧や民生委員からもらい、敬老会には入居者も参加し、また、小学校の運動会に職員が出場し、入居者はお弁当を作り、応援に出かけている。盆踊りでは夜の外出を楽しんでいる。盆踊りの会場になる公園の草取りをホーム独自で入居者と一緒にしたり、こども110番の家になったりとできることから地域との繋がりを持つよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事務局は、職員が自己評価を実施するために、厚生労働省発行のガイドラインを配布、説明し、取り組みやすいよう配慮して、自己評価および外部評価の意義や主旨を説明し、理解するよう努めている。評価を認識することにより、日々何気なく実践している介護を、見直す事ができ、サービスの質の向上に役立っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催され、メンバーは入居者代表、家族代表、民生委員、介護福祉事業者、管理者で構成されている。会議は行事予定や計画、外部評価などを報告し、メンバーから意見、アドバイスを受けている。会議録は重要事項と共に玄関に置き閲覧できるようにしてある。職員とは月1回の会議で話し合っている。会議録は不参加者などへの配布はされていない。	○	年6回開催されている運営推進会議の議事録を、民生委員や、不参加者や各方面などへの配布と共に、認知症についての啓発などの取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長は必要な時に区の窓口を訪れ、できるだけ関わりを持つよう努めている。社会福祉関係担当者へは、ホームから入居者の情報を提供し、担当者の訪問も受けている。また、入居者に成年後見人制度の利用者がおり、NPO法人を通じて包括支援センターとの関係も多い。ホームでは学校からの要請で、専門学校の実習生の受け入れるなど協力を努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2カ月に1回「フレンズ通信」を職員の当番制で発行しており、ホームでの入居者の様子、行事の写真などコメントし、ホーム長、職員からの一言を記載して、家族に知らせている。小遣いは、ホームで金品預かり帳を作り、ホーム長が管理し、主任が確認して、家族の確認は来訪時にしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり相談、希望、苦情などを記入する用紙を備えてあるが、今までの所いずれも利用されていない。家族会は年1回、法人合同で開催し、1/3 程度の家族と事務局、ホーム代表が参加して家族が意見や要望などを出し、家族同士が話せる場となっている。家族の来訪時に職員は話をし、家族や入居者の意向や要望、苦情を把握し運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は法人間であり、職員同士の交流も日常的に行われている。入居者同士の交流も常にあり、職員と入居者とも顔見知りで、職員が異動することによる入居者へのダメージが軽減されている。職員の退職、異動については「フレンズ通信」を通し家族に知らせ、入居者へは、本人あるいは職員が説明し、ダメージを極力おさえるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が3カ月に1回、各ホーム長が講師となり、内容を決めて開催し、職員は必ず参加することになっている。外部研修として、介護事業者団体が主催する中川区介護事業者連絡会の研修が毎月行われ、他に、名古屋市介護サービス事業者連絡研究会などがあり、内容によってホーム長や職員が参加している。参加者は研修報告書を作り、他の職員は資料を閲覧し情報の収集に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム連絡協議会に入会はしていないが、会員から呼びかけがあり、議題によって参加している。また、中川区介護事業者連絡会の研修などに参加している。こうしたことからホーム長同士の交流ができ、相互訪問したり、運営についてアイデアを交換するなど、同業者との活動を通してサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は、5日間程度を目安に行っており、即入居となる人が多い。体験入居で入居者の大まかな状況が把握でき、貴重な時間となっている。入院、入所している場合は病院、施設を訪れ、ホームへ来れない方には自宅を訪れるなどして、入居の日が初顔合わせにならないよう配慮している。また、日中の見学は、家族だけでなく一般の人の訪問を歓迎している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者を人生の先輩として接するよう心がけており、レクリエーションの内容、外出先をどこにするなど、入居者の意向を尊重しながら楽しい生活が送れるよう配慮している。また、新入社員は入居者からホームのこと、人生についてなど、教えてもらったり、お叱りを受けることもある。こうした日常会話の中で励ましや労わりの言葉が出たり、本人の「思い」「要望」などを知ることができ、互いを知ることによって、家族的な関係づくりがされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の状態を把握し、職員が情報を共有できるよう、本人のバックグラウンドシートを家族に記入してもらっている。また、日々の生活の中で、本人の思いや希望、あるいは職員の気づきを補足し、常に新しい情報の共有に取り組んでいる。入居者は信頼関係のできた職員には、入浴時や夜勤時に意向や思いを話す機会が多く、こうした内容を申し送りノートなどに記入し、全職員が情報を共有して、本人本位の介護になるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	3カ月に1回を基本としてカンファレンスを行なっている。各入居者担当職員、それ以外の職員、家族、入居者、計画作成担当者の参加のもとカンファレンスを開催し、家族が出席できない場合は電話で話し合い、意見をいただいている。入居者について、日々の職員間の話し合いは随時記録して、介護計画の参考としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月ごとに介護計画の見直しを行うが、随時現状に即した介護計画の見直しを実施している。また、入居者個々のその人その人の生きがいを新しい介護計画に盛り込めるよう日々観察し、個々に役割や生きがいなど引き出せる、介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を受けており、医療機関と提携し日々の健康管理に努めている。面会時間に制限は設けず、早朝から夜まで家族の状況にも配慮し対応している。家族の来訪も多く、自由で開放された雰囲気が感じられる。家族のホームへの宿泊も希望があれば、対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週木曜日に連携医院の医師による往診がある。また、24時間対応できるよう看護師とも連携している。家族、入居者の希望があれば、入居前のかかりつけ医への通院介助の支援を行なっている。その際は、受診状況や内容について、家族に連絡し報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族とターミナルケアについての話し合いをしている。現在ホームでは、重度化や終末期の対象者はいないが、ホームとしてはできる限り対応していきたいと考えている。また、家族、職員、連携医、看護師、他の福祉施設など、関係者との連携を図り、柔軟な対応ができるようにしたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入社した時にプライバシーの確保、守秘義務についての研修を受けている。また、日々のケアの中でも入居者に対して、名前の呼び方や声かけ、タイミングなどを職員一人ひとりが注意し、思いやりをもって接している。個人情報に関わる重要書類は事務所で鍵つきロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の状態や生活ペースに合わせることを基本に、何事にも無理強いせず、一人ひとりのペースを大事にしている。朝寝坊する人には、声かけはするが無理に起さず、朝食は別に軽食を用意するなど、その人らしい生活に配慮している。また、飲酒、喫煙はホーム内は禁止にしているが、1泊旅行や家族同伴の行事の時には楽しんでもらっている。入居者の帰宅願望が強くなった時には、職員が寄り添い、気持ちが落ち着くよう支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度など入居者と職員が共に行なっている。献立は入居者の希望を聞き、食事の準備、片づけなど役割も自然に決まっている。箸、湯呑み、茶碗も個人持ちで、入居前からの愛用品を使用している。1テーブルに5人から6人が職員と共に座り、会話を楽しみながら一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回のペースで入浴している。リビングのコルクボードに当日入浴する入居者の名前が貼ってあり、足浴する入居者も分かるようにしてある。希望があれば毎日の入浴も可能となっている。入居者ごとに好みのシャンプー、リンス、洗顔、ボディータオルなどが用意され、環境面、衛生面でも充実している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で行うことができること、介助すればできることを自然に役割としている。洗濯物を干したり、たたんだり、自分の使った食器の片付けや洗ったりしている。職員と一緒におやつに手作りケーキや、手作りのカルタ、ゲームを作るなど共に行っている。年1回、外泊ツアーとして宿泊施設に1泊して楽しんでいる。行事である野球選手、相撲力士などの訪問は、入居者にとっても一大イベントになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活の中で天候などに考慮して、随時散歩などの外出支援をしている。毎週1回外出レクリエーションを予定しており、そのほかに週2回、食材などの買い物外出を支援している。状況に応じてイタリア村、名城公園、荒子川公園など車で遠出することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は日中はかけていない。ただし、夕方6時以降は防犯上施錠している。入居者の表情や行動、様子などに変化が見られる場合には、職員が注意しながら対応しているが、安全性を考え施錠することもある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施している。5月に会議を開催して1回目に地震訓練を行ない、2回目に火災訓練を実施している。防災マニュアルは常時閲覧できる場所に設置している。災害時の備蓄品についても用意されている。地域にて開催された防災訓練には職員が見学に行ってきた。	○	定期的に訓練を実施しており、地域の防火訓練にも見学に行っていることから、今後は地域からの協力を得られるよう、運営推進会議でも呼びかけるなどの取り組みに期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、入居者ごとの個別記録で水分量、食事の摂取量を記録にとっている。月1回の体重測定にて一人ひとりの健康状態を把握しており、献立については、連携医院の看護師に栄養バランスなど、メニューのアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには入居者と職員が作った季節の飾りつけがしてある。リビングの南側には大きな吐き出し窓が2つあり、黄金色をした麦畑がよく見える。自然に親しむことができ明るく開放的な空間となっている。玄関と廊下には、ホームでの行事(外泊ツアー、季節行事など)の写真がたくさん飾られ入居者が楽しんでいる様子うかがえた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前より使用していたタンスや引き出し、仏壇、テレビなど馴染みの物が居室に持ち込まれ、居心地よく過ごせるようになっている。現在はいないが、希望があれば冷蔵庫の持ち込みも可能である。また、衣替えは入居者が行える範囲でしており、入居者、家族、職員で意見を出し合い模様替えなども支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。